

(204) 共同体での労働は疎外されただろうか?

「生産性を向上する事」と「秩序づける事」との宿命的な結びつきを断つことが緊要であろう。

参加者たる労働力として、人間性の一部分として見る限り、必ず、その突出したエネルギーはしほみ、社会からはずれた、孤島の存在に、共同体は喪失するであろう。

「生産性を向上する事」と「秩序づける事」の宿命的な結びつきを断つことが緊要であろう。

「労を得るだけ」

「生産性を向上する事」と「秩序づける事」の宿命的な結びつきを断つことが緊要であろう。

「労を得るだけ」

個人の自由な発展を促進しようとする共同体への潜在的力への成長を伴なって高まる。そのへ潜在的力が、秩序のために利用される限り、それは、まさに潜在的なものになり、本来の目標からそれることにならう。

「下マインシャフト」という有機的共同体にしても、他人を「抽象的に取り扱わせない」身分的関係に基づいて。共同体が、参加者、「個人の特性」を無視しこ、彼らを仕事に動かす時は、個人の自由な発展を促進しようとする共同体への潜在的力への成長を伴なって高まる。そのへ潜在的力が、秩序のために利用される限り、それは、まさに潜在的なものになり、本来の目標からそれることにならう。

個人の分業的仕事は「個人との相違」を抹殺してしまうだろう。労働は個人の「自由な意識的な活動」であろうし、「労働すること」で人間は自由になり、「労働の対象化する」と、マルクスは述べている。

「下マインシャフト」という有機的共同体にしても、他人を「抽象的に取り扱わせない」身分的関係に基づいて。共同体が、参加者、「個人の特性」を無視しこ、彼らを仕事に動かす時は、個人の自由な発展を促進しようとする共同体への潜在的力への成長を伴なって高まる。そのへ潜在的力が、秩序のために利用される限り、それは、まさに潜在的なものになり、本来の目標からそれることにならう。

共同体内の労働は疎外されただろうか?  
労働はいかに解決されるか?

共同体内の労働は疎外されただろうか?  
共同体内の労働は疎外されただろうか?  
共同体内の労働は疎外されただろうか?

1972年3月12日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月13日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月14日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月15日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月16日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月17日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月18日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月19日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月20日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月21日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月22日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月23日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月24日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月25日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月26日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月27日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月28日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

1972年3月29日  
（大阪）T・N記  
「労を得るだけ」

